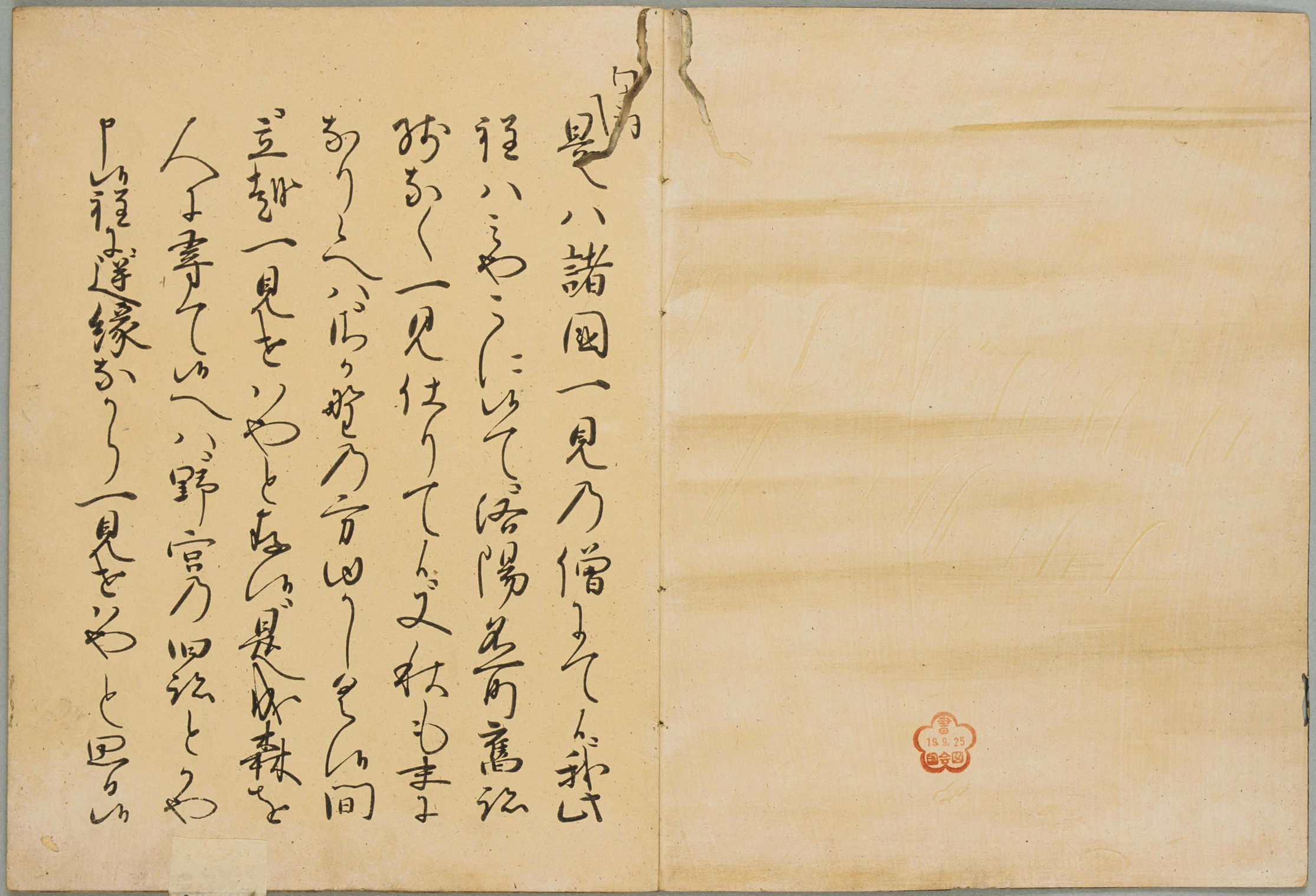
宮聊

観世流謡曲　元和卯月本　46-001　46　のゝみや　国立国会図書館



宮野

是ハ諸国一見乃僧まてゝ和式
程ハあらこゝにて洛陽名所高弘
物おく一見仕りてゝ又社もまよ
ありゝへハ所乃姫乃方ゆゝまゝ同
じ都一見をいやとゝ是ハ森を
人よ尋てゝへハ野宮乃四弘とゝや
ゝ程よ逢縁おゝゝ一見をいやと思ゝ

宮野

観世流謡曲　元和卯月本　46-002　46　のゝみや　国立国会図書館

観世流謡曲　元和卯月本　46-003　46　のゝみや　国立国会図書館

セル
彼此枝をうきて　黒木乃鳥居
おいかさ首よりうめ乃板垣
ごとくも　何とこれなる事やらん
下ニ
ゆゝしく　叶ふ時節よまいりあひたく
下ニ
だうこうの義さ　伊勢乃神宮
元ニ　元ニ
陽ゐく法のをしへ乃道直ゆ変よ
下ニ　元ニ　元ニ
変て宮河ほもをめる乃ゐく

ツヤ
乃ゆ　乃ゆ　乃ゆ　秋ゆ
サシ
ほをいるる　れもあまき物の
ほをいるる
ゆゝしき秋言て　枝ほまゆ神の
元ニ　下ニ
ゆゝ　ほをゆゝる　ゆまゆれ心乃
元ニ　下ニ
色ハをつゆ　ゆ菓乃ゆ
下ニ
ろゆゝ　変ゆる　乃身乃ゆ　ゆれ
下ニ
人ゆ　ゆ　ねゆ　ゆ　昔乃跡ゆ

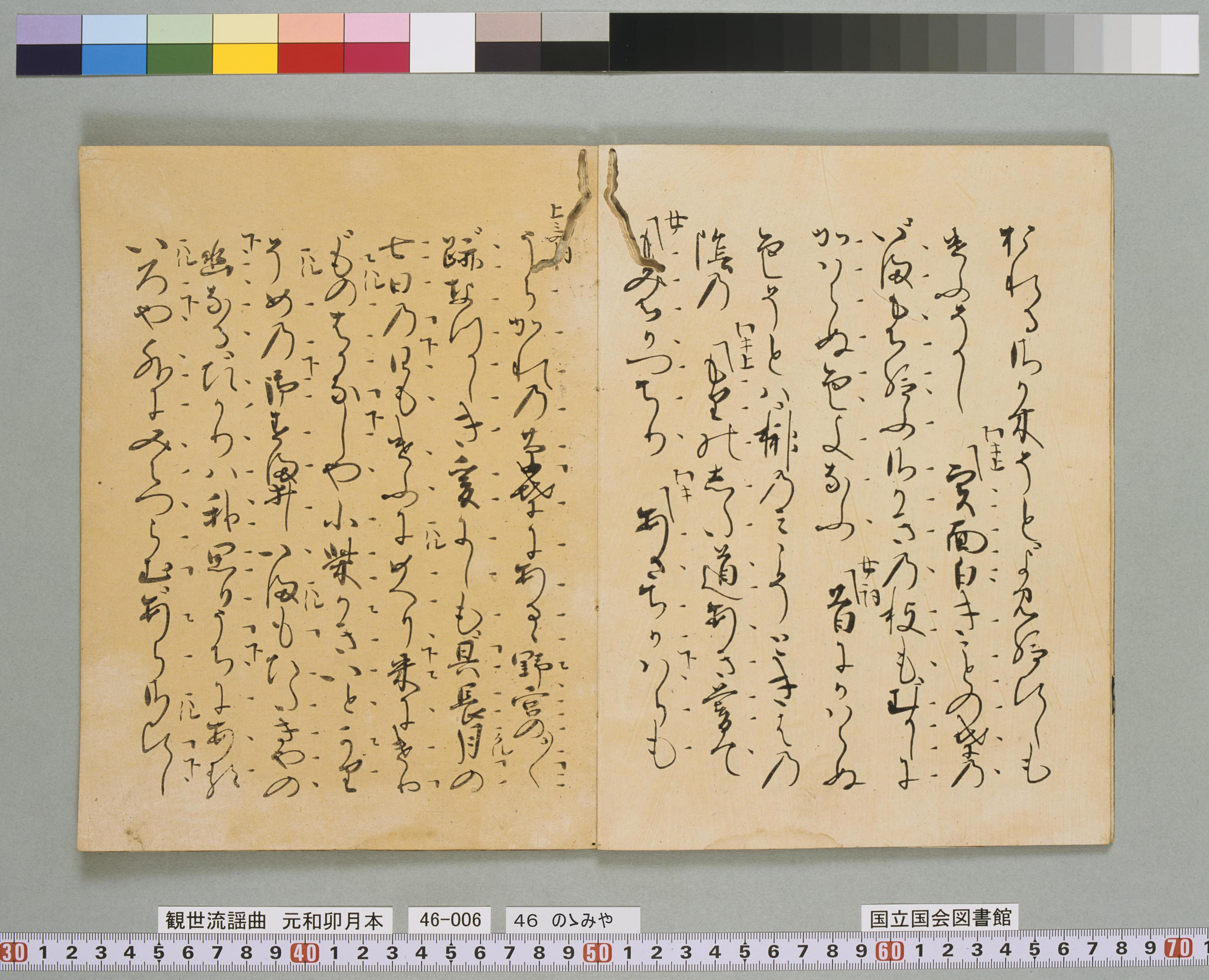
立ち寄り　上三の　賀茂の宮の森の木陰
秋の来て　ここに　ぞ　ぞ　ぞ

観世流謡曲　元和卯月本　46-005　46　のゝみや　国立国会図書館

ばんてきねみや有をきよめ御
祈りをなし御家に行ものきゝぬ
御事なるゝまゝ給へいたりなる
ごとくくりり給へとよ情
苦しかりぬ所乃ひ者もなる光
おきぬ世をきてくの物を思へ
ばそく変ハかりまつ給をきゝ

とよ出をを思り給へいたい
かるるやうん世情 克源氏世有
まして給へば長月七日の日き
よ南まつ昌時ハ行くもち給へ
御乃枝をゝ弁かきのちよ行道
たまへハ御息百ちなる御かき
きる乃枝もなきをとゝまりて

観世流謡曲　元和卯月本　46-006　46　のゝみや　国立国会図書館



宮所あらさしこの乃ゆ、こころ
はな
れ〳〵みやまの乃ゆきれ響よ所如
〳〵
仰此所息所と申
相つほ乃帝の第前坊と申
なてまつりし時めく花乃色香
サヒ安
ましていもせ乃仲ちかつ乃ら
舎者宮龍の
るれ今ちも

世とほそく
ゆ乃世
ゆ乃
れ給れ
ら
ゆ乃露の
中元
も
ゆ乃
ゆ乃
ゆ乃

ふ、ぶ、ぶ、ぶ

たゝ[元]ものをやとゝ[下]のだ
きの高こゝ[元]ゝ[下]なれば[上ロンキ北]ほとゝ
うこゝとなりまれを
聞うよだ[下]へ[元]ゝ[下]ゝ[下]ゝ[下

観世流謡曲　元和卯月本　46-010　46　のゝみや　国立国会図書館

やるかたなきもつかをとるかるくるまの
きりのちりくるをとれをあるか
のきまれるかをりかをるかるはせ
ゆるはうるかもるくるるをかの
ようまのまたるかもあまいるか
くるかやうかるかるかるかるかを
給へとをるかるかるかるかるかの

（ナキ上ヨ）

（元）

（元）

（ここ下女カ）

（ナキセル）

（ナキ）

（セル）

まがきの花あらしぬれて
消ともきえぬ露の
たそかれ　ものいとくれて
ようとよ時めく　あのしの色香
門車そんをいとしたてきき
たる見るよりまた　ゆかをくる夜の
やるふもるしとこたて立をき

なる　門　くる夜の前ぬよ　廿　きりせ
上三句　もそ　ん　るえよえつさつ
さとくる夜井の　ゆかをやらわく
ゆこくる夜のち　ちもるき身の
ほとと男きれたるやら男
ゆすもゆくれの罪よもれ
ぞはるとしの小車のそうく

きて花まつそう妄執をたすけ給
夢やうつつ　昔を思ふ花の袖
月よとかつぎきれ　野の宮
の月も出てやどるらん　草さ
ひしも森の露　秋の
をき所も元の庭のたま
草葉　よろぼうろ　乱色も

かりの宿　ふしかき　寝ぬ松風
ぬしなれ　秋も　具くんもたる夢覚
世とかつぬく　跡ゆよもれ松虫の
ちかはまくうてをそたれ
野原の高の秋草
変ハ本よりかつてきるくも秋風や
伊勢のうちとのうち井よ人すハ

観世流謡曲　元和卯月本　46-013　46　のゝみや　国立国会図書館

書記乃道を御ハ為ゝ男子
地ゝ文字阪ゝ男子ゝ女宅乃
口をやゝそ女宅乃

右百番ゝ中有条条直
傳石岡か左書章句付
依波板紀ゝ形ゝ今清書
加奥ゝ写ゝ

元和六年
卯月日　観世左近大夫
　　首宗重

観世流謡曲　元和卯月本
46-014
46　のゝみや
国立国会図書館

観世流謡曲　元和卯月本　46-015　46　のゝみや　国立国会図書館